



はっとり まさひこ
服部 昌彦さん(65歳) 飛島村元起

いつまでも元気に働きたい

50アールの圃場でネギとホウレンソウを栽培している服部さんはこの道47年のベテラン生産者です。18歳で就農してからこれまで、この土地で農業を続けてきました。

飛島地域の特産品であるネギとホウレンソウは、その栽培方法に特徴があります。この地域ではホウレンソウを蒔いた畝の横にさらにネギを蒔き、一つの圃場で育てます。これらの野菜はコンパニオンプランツと言われ、一緒に栽培することで土壌環境を整え、病害虫の発生を防ぐことができます。

秋に播種を行った服部さんの圃場では3月にホウレンソウの収穫が終わり、4月からはネギを収穫しています。

ネギは高く盛った畝の中で白い部分が育つため、鍬で土を崩して

から手で掘り起こして収穫します。夏場は熱中症などのリスクもあるため、服部さんは毎朝6時には圃場で収穫をはじめ、朝食前には作業を終えます。出荷作業ではコンプレッサーを用いた表面の皮むきや箱詰めなどが夜の8時まで続きます。また、暖かい時期は病害虫の被害が起きやすいため、定期的に消毒作業を行い、台風時には風で倒れないように布などを用いてネギを支えます。

露地栽培では生育が天候に左右されやすいですが、丁寧に世話をし、半年間で約60トンのネギを出荷します。「働いた分だけ返ってくるのが農業のいいところ。体が動く限りは栽培を続けていきたいです」と服部さんは話します。ネギの出荷は10月まで続く予定です。

